会

山行報告書

通算山行NO	NO・202 A	報告者	加藤秀子
年月日	'01年 2月 9日（金曜日）～	年 2月12日（月曜日）	
山行名	山スキーと登山	天候	晴れ
山名	東吾妻山（1975m）・高山（1805m）		
この山のセールスポイント	西をやったら東をも・・・と		
コース及びタイム	裾野13:00 ⇨東名高速・用賀ＩＣ14:10 ⇨首都高速⇨浦和料金所15⇨東北道・福島西ＩＣ18:20/夕食タイム⇨吾妻スキー場（車中泊）21:30 就寝		
標高差	△S ～T ＝ m	体力度	1・2・3・4・5・6
	▼T ～G ＝ m	技術度	1・2・3・4・5・6
全走行距離	～ ＝ 900km	展望度	1・2・3・4・5・6

参加者				
	CL	後藤隆徳	53	待望の山だ。頑張ろう
		長岡浩一	41	アワビパワーでヤルゾ
		加藤秀子	51	会津駒ではラッセルできなかったが、今回は食らいついてでも・・

裾野から加藤が便乗して予定通りの出発。東名裾野からのぞむ富士山は、相変わらず裾野まで真っ白な雪に覆われ、先週土曜日宝永山からの滑降が再び脳裏によみがえる。素晴らしいパウダースノーに歓喜し、標高差 1600mの長い行程に嬉しい悲鳴をあげた。今回の東吾妻はどんな山で、どんな風に私達を迎えてくれるだろう。期待に胸が弾む。

車は金曜日の午後ということなのかスムーズに走り、用賀ＩＣから首都高速、東北自動車道とつつがなく通過し福島西ＩＣでおりる。時間が早いので、折角だから食事を済ませていこうと、駅前の銀行に車を止め町中に繰り出した。駅の地下道を抜け裏手の路地にいい店を見つけたが、混んでいたので筋向かいの〔祭りばやし〕という店にはいる。あわびの生刺しグラム 100円は高いか安いか。１個3000～5000円はする代物だ。活きのいいアワビに舌鼓をうち、地酒の栄川（えいせん）で喉を潤す。３人で合計ポッキリ１万円だった。

再び駅の地下道を抜け車に戻る。途中、地下道には１８歳の男の子２人がギターの弾き語りをしていた。ＣＬがこれを見逃すはずがない。立ち寄り、投げ銭をしてリクエストをする。一生懸命爪弾いて歌う若者に『若い子はいいなァ ～』と目を細めて聞いていた。表に出ると駅裏では気がつかなかったが、雪が降ったらしく汚れた雪の上にきれいな雪がかぶさっている。車の上にも積もっていた。駅の裏と表でこんなに違うものなのかな。

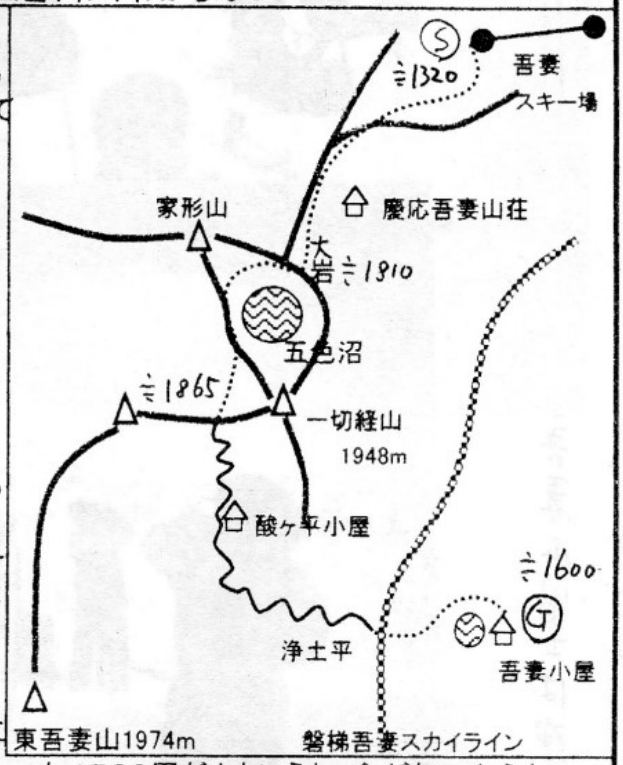
車に戻り一路、吾妻スキー場へ。高湯温泉までくると、道路は完全に雪で覆われ外は雪が舞い始めた。登るにつれ、雪の降り方が激しくなりフロントガラスからの視界がない。この吹雪では明日のラッセルが大変だろう。いや、もしかしたら行けないかもしれない。そんな心配をしながら、チケットハウスを過ぎて最上部まで行き、明日の偵察を行う。確認をした後、此処に車を止めて明日動かなくなっては困るからと高湯温泉まで戻り、格好な場所を寝所と決めた。少し下がっただけでも雪の降り方が静かだ。天空に星もかいま見える。

明日はラッセル要員になれるだろうか。滑りでついていけるだろうか。不安が胸の中で渦巻く。いつも寝付きがいいのが自慢の私だが、今夜はなかなか眠れそうにもなかった。

山名	東吾妻山（1974m）	報告者	長岡浩一
H13年2月10日 コース及びタイム	起床5:00～吾妻スキー場リフト8:30～スキー場上発9:10～五色沼上大石12:00頃～一切経山コル13:30～浄土平14:30～吾妻小屋15:00（就寝20:30）		

標高差	△S　1320m　～　一切経山コル1865m　≒　545m	体力度	1・2・3・④・5・6
	▼　一切経山コル1865m　～　吾妻小屋1600m　≒　265m	技術度	1・2・3・4・⑤・6
走行距離	～　≒　km	展望度	①・2・3・4・5・6

参加者				
	CL	後藤隆徳	53	強風、パウダー、山小屋、ビール、最高！
		加藤秀子	51	ツアー用リュックを新調、強風に負けるわけに行かないのよ。
		長岡浩一	41	初めての山、視界0、暴風雪、わけわからん！



起床後、まずリフト券売り場のハニーハットへ移動。車中で湯を沸かし朝食。着替え後、トイレが無くて困っていたが、出勤してきた従業員にレストハウスを開けてもらい、暖かいトイレを使わせてもらう。最上部の駐車場へ移動し、スキーを履く。少し滑り降りて、リフト3本乗り継ぎ、標高約1300mの終点でシールを貼る。我々の他にマイクロバスで来た15名程の地元のパーティがいて、今日は五色温泉へ泊まる予定だそうだ。

風弱く、小雪。静かな樹林の中を15名と前後しながら登っていく。所々枝に蛍光黄緑色のりっぱな布がついていて、ご丁寧に縁までしっかり縫ってある。初めての山なので、心強い。ありがたい。うれしい。暖かい。

たいして歩いていないのに、腹が減ってしょうがないので、昨日サービスエリアで買った大福もちを2個食った。これは効いた！行動食には元気の出る大福だ。

慶応吾妻山荘入り口を過ぎて、15名は右へトラバースしていった。我々は尾根沿いに行く。先行トレースは無く、傾斜も増して深いラッセルが続く。前が沢状になってきて、地図を見て考えていると、後ろから大きな荷物を担いだ若い3人組が来て、ラッセルありがとうと礼を言われた。吾妻小屋へ泊まるのかと聞くと、あそこは有料だから酸ヶ平の避難小屋に泊まるという。でもたった4500円だよというと、金が無いからという。無いわけない。たいしたもんだ。

大岩のところまで来るとものすごい風だ。あまりの風にちゅうちょしていると、後から大勢登ってきた。皆ここからスキーを担いで行く。ついていかなければと、我々もスキーを担ぎ歩き出すが、スキーが何かに引っかかって歩けない。上を見るが何もありゃしない。風だ。雪が飛ばされてごつごつで歩きにくい。家形山のコルまでわずかだが、何度か風に吹き倒される。再びスキーを履き、家形山をトラバースし、賽の河原のような広いコルに出た。見通しがきかず、わけわからない。サングラスも凍りつき、目出帽も厚く凍り付いて、落ち着いて地図を見る余裕も無い。右ストックは、細い右手首に縛り付けただけなので風に踊って用を足さない。心細いが、ルートを知っている先行者がいて助かる。ありがたい。

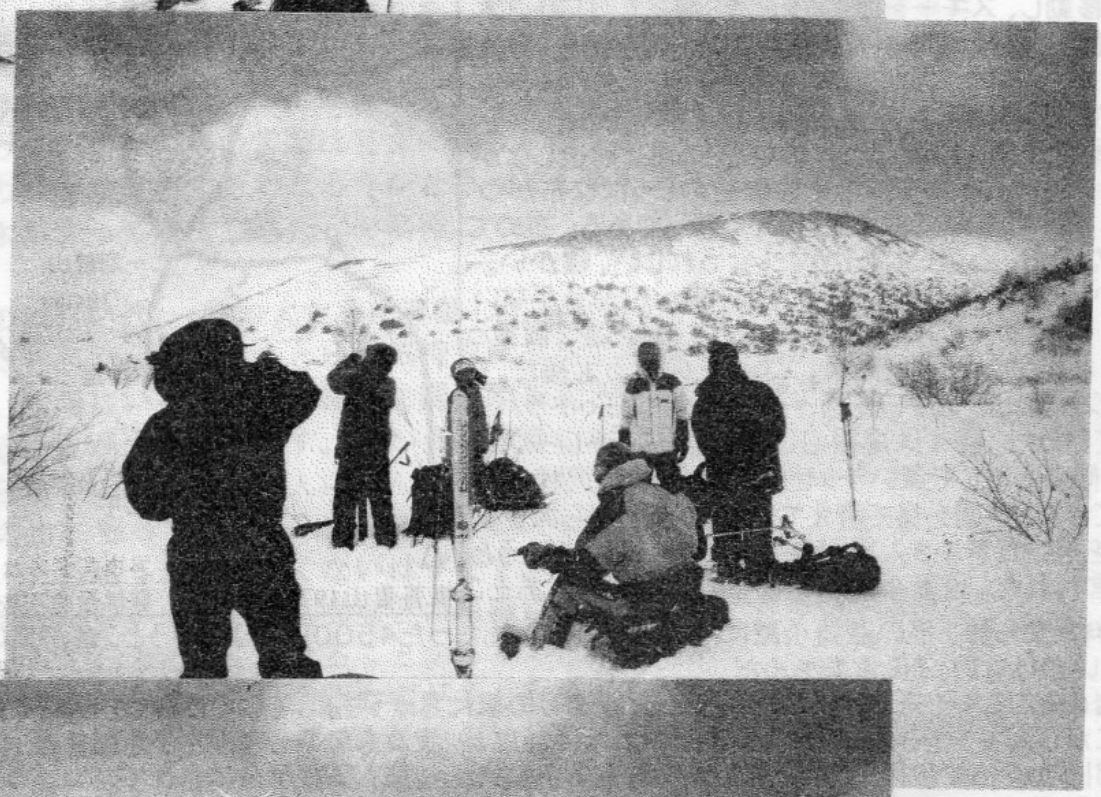
一切経山のコルで皆シールをはずしている。我々もはずして一斉に滑り出す。すぐ沢状になって、深雪のパウダーだ。気持ちがいいが、転んだら大変。容易に起き上がれない。加藤さんは疲れたのか、何度か転び少し遅れたが、先行パーティは酸ヶ平避難小屋のところで待っていてくれた。ありがたい。感謝感謝。下ってきたら少し見通しがきくようになってきた。気持ちのいいパウダーはまだ続き、浄土平に下りついた。嘘みたいに穏やかで、吾妻小富士が見える。

凍って接着力の落ちたシールを着け、30分程で静かな樹林の中の吾妻小屋着。ここは、風雪地獄の中の天国だ。ご主人はやさしく、ストーブは一晩中燃えていて暖かく、濡れたものはすべて乾き、ビール(400円/350ml)、お酒(400円/ﾜﾝｶｯﾌﾟ)はガブガブと飲め、乾いた布団で気持ちよく眠れる。

先週、富士山でお会いした、三島市在住の富岡さんとまたお会いした。会社の相沢さんと来たそうで、明日のルートのことや、オートルートの話など聞かせていただいた。

夕食は、シェフ秀子による、きのこ・野菜たっぷりのキムチ鍋と、こだわりの黄な粉もち。今日の疲れはこれで解消。小屋のご主人から、お酒「栄川（えいせん）」1升と酢漬けの大根をたくさんいただいた。おいしかった。強風に負けて撤退しないでここまでやってこれて、良かった良かった。感謝！感謝！

ようやく風のない浄土平に
下った、バックは前大嶺



吾妻小富士は強

浄土平はナゼか
青空が広がる

(上) 浄土平からのぞむ 一切経山 (1949m)

(下) 翌日 大雪の中の「高山下り」

山　　名	東吾妻（1975m）・高山（1805m）	報 告 者	後藤　隆徳
この山の セールスポイント	快適なデープパウダーから 非常に難しい滑降ルート		
2月11日（日） コース及びタイム	起床4:30　出発6:10～東吾妻山8:50～鳥子平ら10:00 ～高山11:50 ～土湯温泉16:00/17:00 ～高湯温泉発18:00 ⇨下土狩　翌1:30		
天　　候	風　雪	体力度	1・2・3・4・5・⑥
標 高 差	△ 375＋205　＝ 580m	技術度	1・2・3・4・5・⑥
	▼ 375＋1430　＝1805m	展望度	①・2・3・4・5・6

参加者				
	CL	後藤　隆徳	53	吾妻小屋で、来年オートルートに行こうと3人で誓った
		長岡　浩一	41	全ての面で非常に厳しい山だった
		加藤　秀子	51	モーレツな風に煽られ吹き飛ばされた。でも厳冬期の雪山に痺れた

二日目

就寝中、時折「ゴーッ」と風が梢を揺らしていた。「今日も風雪だろうか」。長岡のアラームが小屋の静寂（しじま）を破る。例によって今朝も一番の起床である。昨夜のキムチ鍋の残りを平らげ出発。窓外には小雪が舞っていた。磁石で方向を定め東吾妻に向かう。今日もトップでラッセルだ。小屋泊まりの殆どの人が東吾妻に登るのだから、皆で協力してラッセルが出来るといいのだがと思う。スカイラインを横切って急登を行くと、特徴のない平坦な地形が続く。ガスで山が見えないので磁石を頻繁に見る。今回程、地図、磁石の必要性を感じた山はない。膨大な積雪があり、悪天候で平坦地形。そして初見の山の難しさ。

最後の急登を行くとシラビソが疎らになり頂上に至る。昨年末、西吾妻を登ったので、これで西と東をスキーで登った事になる。けっこうなラッセルだったが、今回は若い長岡が頑張ってくれるのでだいぶ楽だ。頂上は例によって風雪だ。少し下り、滑降準備をしていると若いカップルと、先日フジ山で再会した三島の富岡・その友人の相澤氏が上がってきた。南東に向かって滑降。処女雪のデープパウダーに痺れた。シラビソの森をぬって簡単に終了。下部はスキーが滑らないのでシールをつけて歩く。先程の4名が抜いて行った。途中でトレースが左右に別れていた。後で判明したのだが、富岡氏達は悪天候の為ここから小屋に戻ったそうだ。

鳥子平に出て、スカイラインで休んでいたカップルを抜かし再びラッセルで高山に向かう。登りにくく深いラッセルで苦しむ。ところが先程のカップルはちっとも登って来ない。どうやら我々のラッセルが出来るのを待っているようだ。この深雪を2人でラッセルするのは当然出来ないだろう。だからといって露骨な「ラッセル・ドロボー」はいただけない。協力する姿勢が欲しい。このカップルはその後、下りでも一度もトップに立たなかった。（深雪は下りでもトップは苦しいのです）我々は余りに悔しいので、このカップルに「パラサイト・カップル」の称号を与えた。

右手に巨大な電波反射板が見えると頂上だった。手早く準備をして反射板の先を真南に下る。真下に、昨日ルート不明時に世話になった3人組がいた。彼等は昨夜、酸ケ平避難小屋に泊まったが、理由を聞くと『吾妻小屋の宿泊費4千円は高い！』と言っていた。最近ではなかなか骨のある輩（やから）とみた。で、昨夜貴方たちの事が小屋で話題になったと言ったら、明るくケラケラと笑っていた。イイ人達だった。

上部は木が混んでいて滑りにくい。昨日小屋で富岡氏に、左手に左手に、東へ東へ意識して

滑るよう助言されたので忠実に守っていく。富岡氏も何回か此処を滑っているそうだが、なかなかまともに下れず、何時かなどは南に下り過ぎで時間を相当無駄にし、ギリギリで土湯に着いたと話していた。1500m位まで下ると平坦地形になり非常に難しくなる。今何処にいるのかさっぱり分からない。加えて、いつしか降雪が激しくなり１４時なのに薄暗くなってきた。ビバークの準備はあるものの「下山遅れ」は絶対したくない。長岡も一生懸命地図を見てくれる。なかなか頼もしく心強い。加トーは・・・。

『あったー。』左手前方に赤布が揺れていた。$\frac{73}{150}$ という丸い黄色のプレートもあった。1455mだった。これで一安心である。しかし、此処まで来たのは決して理論的な事でなく、全くの「勘」であった。やはりこんな時ＧＰＳ〔Global Positioning System〕（全世界測位システム）が必要だろう。その後少しまごついたが、何故かその先にトレースがあり再びプレートもあった。シラビソの森を抜けると雑木林になり明るくなり元気も出てくる。

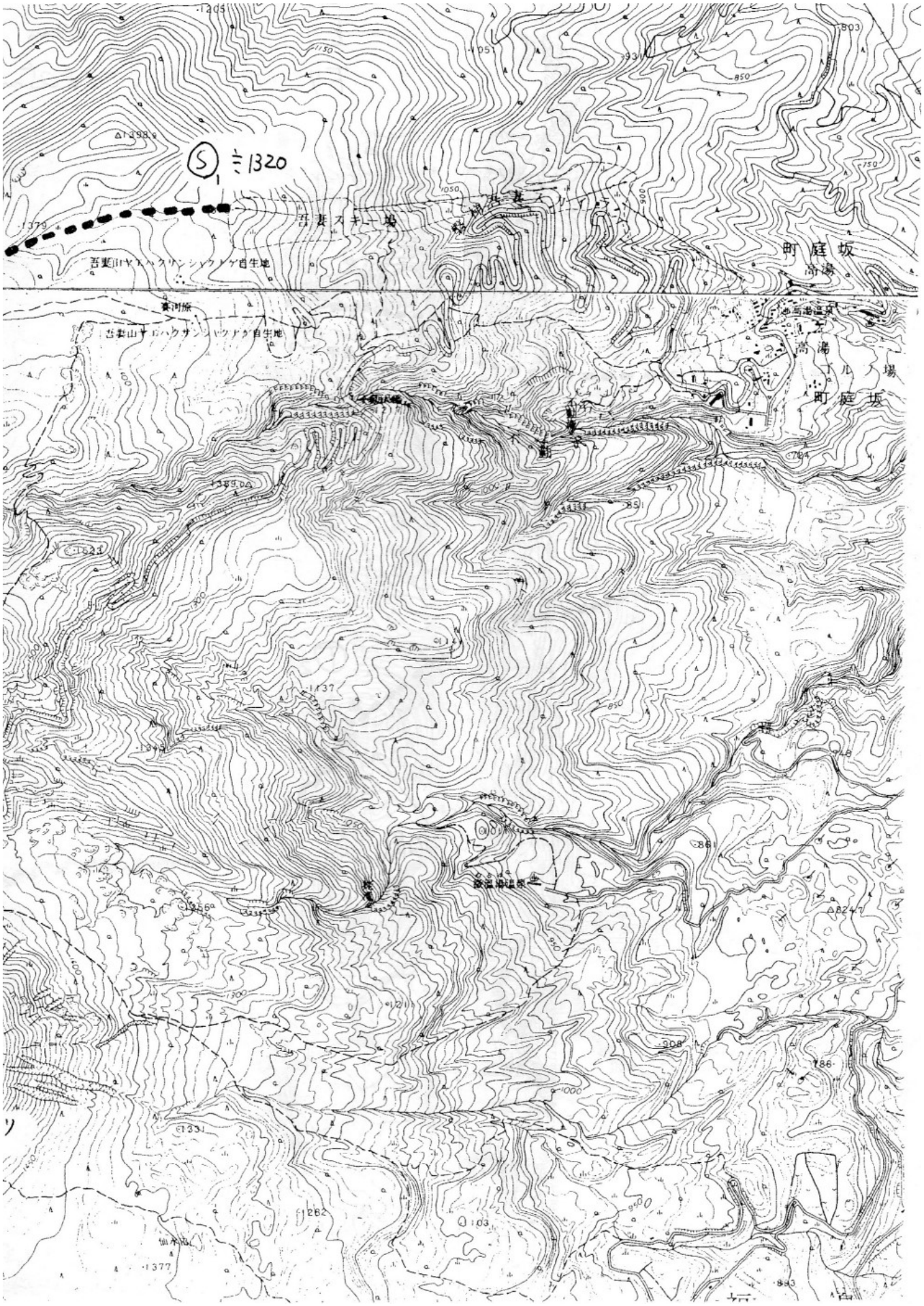
トレースをガンガン追っていくと、前方に昨日の３人組と何と、それに「パラサイト」がいるではないか。何処をどう来たのか。「パラサイト」はやはり「寄生」していくのが上手なのだ。カヤローッ。唯一私が下ろした「超うま」ビールを飲んだり、快適に滑り、スカイラインから林道を飛ばすと、正に土湯温泉の繁華街の標高380mまでドドドと滑り込んだ。滑り込んだ角が何と食堂で（まるに食堂・うまく出来てるナー）タクシーを頼んだ。腹が減っていたので１７時に来るよう指示し、１時間で日本酒（栄川・えいせん）・ビール・メシ・ラーメン・ギョウザ・おでん・根曲がり竹（現地名は？）等、ガツガツと腹に詰め込んだ。

タクシーで高湯温泉に車を回収に向かうが、大雪で途中多くの観光客の車が立ち往生している。我がタクシーもチェーンを巻くのに１時間程かかり、ようやく車を回収し（タクシー代約７千円）帰静した。

今山行の反省

①荷物の軽量化・長岡とゴトー差は２kg。例えばアイゼン→鉄とチタン。ヘッドランプ
　昔の大型と発光ダイオードの７０ｇ。カメラ→一眼レフと高性能コンパクト。
　ポット→ステンレスとチタンなど。
②地図読みが自分自身まだまだだった。
③超強風下での行動研究。
④車で入山した一日目の朝食にタンパク源が欲しい。（以前にもあった）
⑤地図を頻繁に見る場合の工夫。（ポケットは不便）
⑥吾妻小屋発６：００では遅いか。（どうせラッセルをやるなら早い方が時間的に有利）
⑦ＧＰＳの研究。
⑧スキーはワックスを必ず塗っておくこと。
⑨車の運転で眠くならない方法の研究。

P.S　今回の山行で何年か前やはり吾妻連峰のスキー遭難がしきりに頭をよぎった。

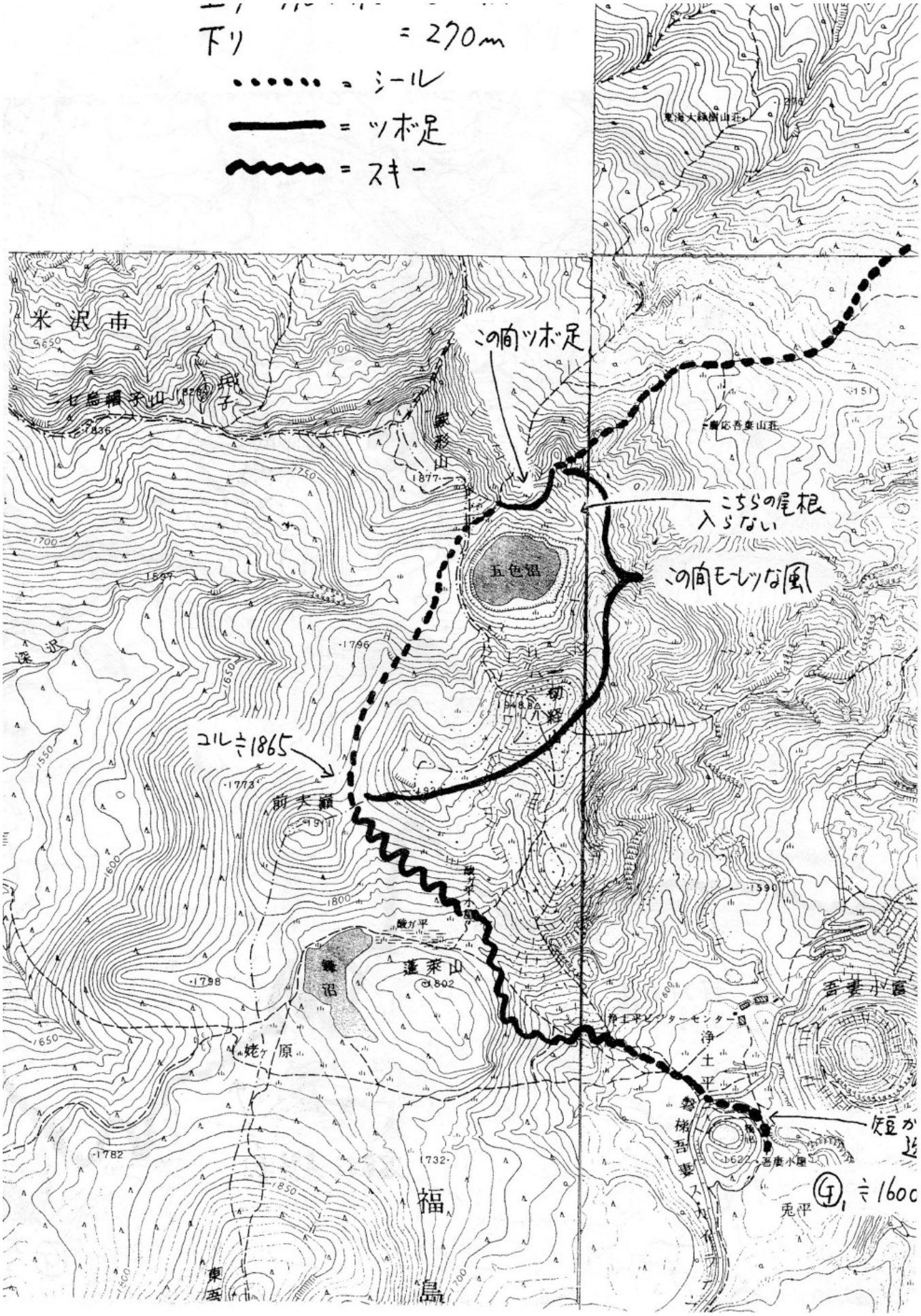

S1 ≒1320
吾妻スキー場
吾妻山ヤエハクサンシャクナゲ自生地
町庭坂
高湯
高湯ドル入場
町庭坂
硫黄泉

下り　　= 270m

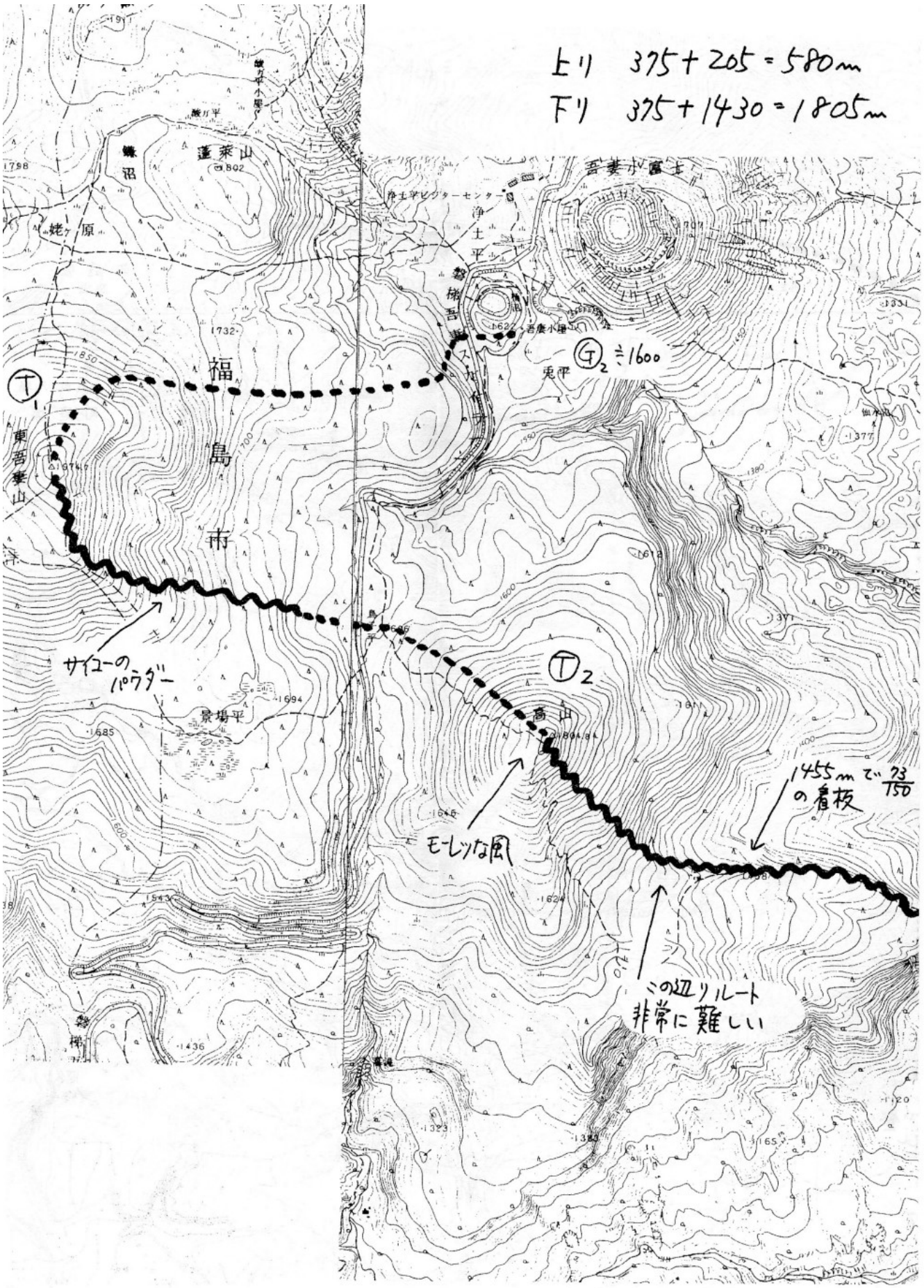
= シール

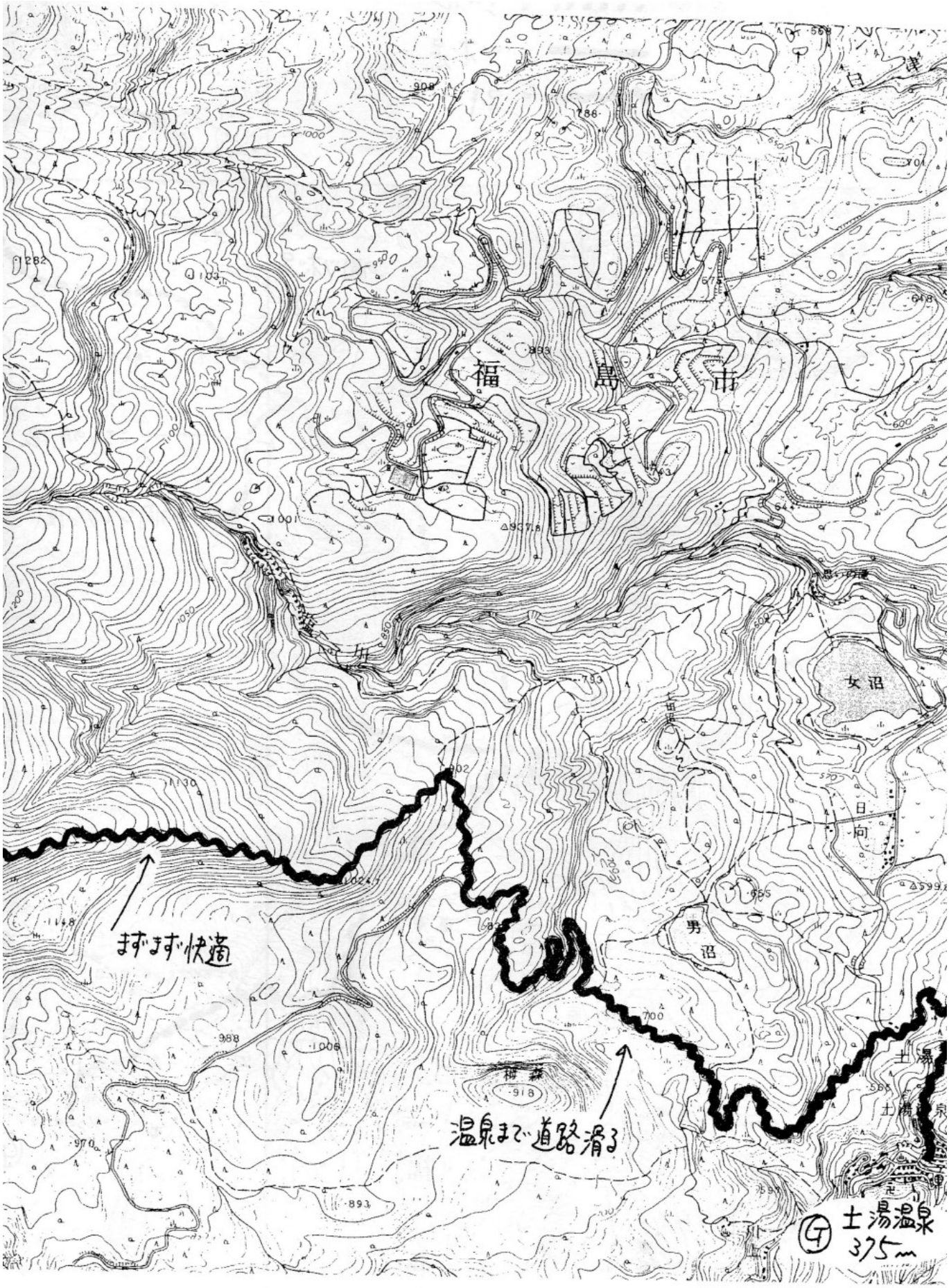
= ツボ足

= スキー



上り　375＋205＝580m
下り　375＋1430＝1805m




福
島
市
女沼
日向
男沼
梅森
土湯
土湯温泉
まずまず快適
温泉まで道路滑る
④ 土湯温泉
375m